

令和5年6月1～2日 台風2号及び前線に伴う防災操作の概要

- 徳山ダムでは、令和5年5月17日から6月15日に向けて、梅雨や台風による出水に備えて洪水を貯める容量を確保するために、ダムの貯水位を洪水貯留準備水位である標高 391.0mまで低下させる運用を行っています。
- このような中、令和5年6月1～2日では、西日本と東日本では、台風2号周辺の湿った空気の影響で梅雨前線の活動が活発となり大雨となりました。また、近畿、東海では「線状降水帯」が発生して大雨になった地域もありました。
- 徳山ダムでは、今回の台風と前線による出水に備え、ダムの貯水位を当初予定の貯水位低下線より低下させる操作を5月31日から行い、出水前までに概ね50cm程度の貯水位低下を行いました。
- 徳山ダムの流域では、6月1日20時から翌2日23時にかけてまとまった降雨となり、この降雨の影響により、徳山ダムへの流入量が6月2日14時には洪水流量(200m³/s)に達しました。
- 予め貯水位を低下させていたこともあり、徳山ダムからの放流量を大きく増量することなく、これにより下流河川での大幅な水位上昇はありませんでした。

